

事後評価シート

調査研究課題名	ASEAN の物流に関する調査研究
担当者	研究調整官 小澤康彦、研究官 加藤賢、研究官 武田紘輔
① 当初目標と目標達成度	<p>本調査研究は、今後 ASEAN 地域、特にタイ+CLM（カンボジア、ラオス、ミャンマー）地域における日系物流事業者の事業運営上のボトルネックとその対応策を整理し、今後当該地域に進出を図る日系物流事業者の意志決定に資する情報を提供することを目的として実施したものである。</p> <p>調査研究の成果として、現在及び将来（2020年頃）の日系物流事業者のタイ+CLM 地域における事業運営上のボトルネックと、その対応にあたって事前に準備しておくべき事項を整理、提供することで、当初の目標を達成できたものとする。</p>
② 調査研究内容の妥当性	<p>本調査研究では、タイ+CLM 地域のボトルネック及びその対応策について、各国及び各関係機関等の文献調査を実施するとともに、物流事業者、荷主事業者等へのヒアリングを実施し、実態を確認した。</p> <p>本調査研究の成果は、日系物流事業者がタイ+CLM 地域への進出を検討するにあたって、有効な情報を提供し得るものである。</p>
③ 調査研究の仕組みの妥当性	<p>調査研究を進める過程で随時有識者ヒアリングを実施し、有識者からご助言をいただいた。有識者は、日系物流事業者の事業運営や、ASEAN 地域の物流事業環境に知見を有する学識経験者に就任いただき、様々な角度からご意見をいただいた。あわせて、日系の物流事業者や荷主事業者への意見聴取を実施し、現状における事業運営上のボトルネックとその対応策の実態を把握した。</p>
④ 成果と活用	<p>研究成果を当研究所のホームページで広く公表することを予定している。また、本調査研究の結果が、今後の我が国物流事業者のタイ+CLM 地域への進出可能性の検討材料として活用されることを通じて、将来の我が国物流システムの海外展開に資することが期待される。</p>
⑤ その他	<p>調査研究内容を PRI Review 51号、53号に掲載するとともに、当研究所が主催した平成 26 年度研究発表会や物流連の国際業務委員会ワーキングチームにおいても、成果の一部について報告を行っている。</p>